日本語教育史　　清川

１．幕末までの日本語教育

＜キリシタン宣教師＞

＊日葡辞書　イエズス会宣教師編（１６０３－４）

　３３０００語をポルトガル語で説明をした日本語辞書

＊ロドリゲス「日本大文典」（１６０４－８）

　イエズス会の宣教師の日本語教育のために書いた本。

＊ロドリゲス「日本小文典」（１６２０）

　「大文典」を更に進めた日本語の特質について書いた本。

＜中国における日本語資料＞

＊「日本奇語」（１５２３）

＊「日本館訳語」（１４２９～１５４９）

　明の時代の中国人通訳養成のための本

＜朝鮮における日本語学習＞

＊「捷解新語（しょうかいしんご）」

　康遇聖（こうぐうせい）著（１５８１～？）（１６７６年刊）

＜ロシアへの漂流民＞

＊デンベイ

　ロシアの記録にある最初の漂流民日本語教師。

＊ゴンザ

　「新スラブ日本語辞典」（１７３６－１７３８）

　１２０００語の露日辞典

＜ヨーロッパにおける日本研究日本語研究＞

＊ホフマン
　１８５１年にオランダライデン大学日本語教授となる。
　日本語研究書「日本文典」（１８６７）を出版。

＊ロニー
　１８６８年フランス・パリ国立東洋語学校に開設された日本語講座初代主任教授。１８５４年「日本語研究序説」を書く。

２．開国前後の日本語教育
３．
＜外交官たちの日本語研究＞
イギリスからの駐日行使オールコック、通訳生アストン、アーネスト・サトウたちは、たくさんの日本語文法書、辞書などを書き表した。

＜宣教師の日本語研究＞

＊ブラウン
　教科書「日本語会話」（１８６３）を出版。上下関係、親疎関係による使い分けなどを盛り込んだ、会話テキスト。

＊ヘボン
　日本で最初の和英辞典「和英語林集成」（１８６７）初版。２０７７２語。
　第３版の表記が、現在のヘボン式ローマ字綴りの元になっている。

＜日本研究者＞

＊チェンバレン
「日本口語便覧」（１８８８）日本語学習入門書。

４．戦前戦中の日本語教育

＜台湾＞

＊伊沢修二

１８９５年、台湾で「芝山巌学堂」（しざんがんがくどう）を開設。
６人の日本語教師と日本語教育にあたる。

＊山口喜一郎

山口喜一郎が伊沢の後任となる。グアンメソッドを取り入れた直接法で日本語教育にあたった。

それまでの対訳法とは？
シリーズメソッド「教室の戸を開ける」とは？

＜朝鮮＞

＊岡倉由三郎（よしさぶろう）

１８９１年　日語学堂で外国語としての日本語教育を始める。

＊「国語読本」

１９１０年の日韓併合から、日本語は「国語」として強要されていく。
台湾から朝鮮へ渡った山口喜一郎は、国語としての教科書「国語読本」を、直接法で指導した。

＜満州＞

＊大出正篤（おおいでまさひろ）

満州における成人のための教授法を考案
「速成式教授法」

＜南洋群島＞
日本の占領期１９１４～１９４５年に、日本への同化のための国語としての日本語教育は、トラック、サイパン、パラオ、ボナペ、ヤルート、ヤップ島などでも行われた。

＜南方占領地＞
マレー、フィリピン、オランダ領東インド、ビルマ、などでは
大東亜共栄圏における共通語としての日本語普及政策が進められる。
南方向け教科書の編集、南方派遣教員養成、南方特別留学生育成など。

＜国内＞
＊最初の留学生
　１８８１年、福沢諭吉が朝鮮からの留学生を二人受け入れる。
　その後、９７年までに約３００名が来日

＊嘉納治五郎
　１８９６年に、清国政府の依頼により、（１８９５年日清戦争集結）
　私塾亦楽書院（えきらくしょいん）で、清国留学生留学生を１３人受け入れる。

＊松本亀次郎
　１９０３年、宏文学院で日本語教師になり、留学生のための教育に従事していく。その後、神田に日華同人共立東亜高等予備校を設立。この学校は終戦まで続くが、日中交流のために生涯を捧げた。１９４５年没。
＊松宮弥平
　１８９３年、前橋において、宣教師のための日本語教育を開始。

＊アイヌ民族に対する日本語教育
　１８７１年アイヌ語禁止
　１８９９年「北海道旧土人保護法」日本語教育の強要

＊長沼直兄（なおえ）
　１９２２年にパーマーと出合い、２３年にアメリカ大使館内の日本語教官に赴任。
　パーマーの教授法を日本語教育に取り入れ、成人英語母語話者のための教科書「標準日本語読本」を編纂。
　４１年に日本語教育振興会理事

＜アメリカ＞

＊エリセーエフ
　１９３４年ハーバード大学の東洋語学部の教授になる。
　１９４１年から５年間、アメリカの海軍語学学校で日本語を教える。
　ライシャワーはハーバード大の教え子

＊ASTP
＊オーディオリンガルメソッド
「Beginning　Japanese」E.Jorden

４．戦後の日本語教育

＜復興期の日本語教育＞
　戦時下の日本語教育において開発された日本語教材が、改訂されて出版される。

＊長沼直兄
　「Basic　Japanese　Course」（１９５０）
　「改訂　標準日本語読本」（１９６４）

＊国際学友会
　　鈴木忍編纂「NIHONGO　NO　HANASIKATA」（１９５４）

＜１９６０年代の日本語教育＞

オーディオリンガルメソッドの影響
「日本語の基礎Ⅰ　II」海外技術者研修協会
　文型シラバスの日本語教科書

＜１９８０年代の日本語教育＞
　コミュニカティブ・アプローチの時代
　K.Jhonson　&　K.Morrow
　「コミュニカティプ、アプローチと英語教育」

「Situational Functional Japanese」つくばランゲージグループ

＜１９９０年代以降の日本語教育＞
・年少者のための日本語教育の需要が増える
　「にほんごをまなぼう」文部省　１９９２

・日本語学習の目的の多様化
　①　大学、大学院などのアカデミックな専門日本語
　②　日本語学校などの進学のための日本語
　③　外国人研修生、技能実習生のための日本語
　④　看護師、介護士候補生のための日本語
　⑤　帰国子女、外国人労働者の子弟などの年少者の日本語
　⑥　地域のボランティア教室における定住外国人の生活日本語
　⑦　ビジネスパーソンのためのビジネス日本語

・多文化共生社会における生活者のための日本語